

# 北摂SATOYAMA国際セミナー参加申込書

申込書送付先 **FAX 0797-86-4309** お問い合わせ先 **TEL 0797-61-4015**

郵送の場合：〒665-8567 宝塚市旭町2-4-15 兵庫県阪神北県民局 県民交流室 環境課

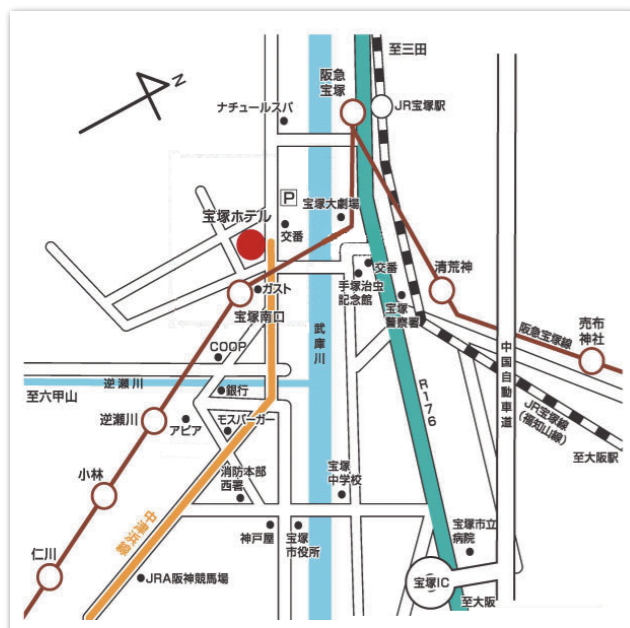
複数枚必要な場合はコピーしてご利用ください

事前申込み制となっています。(先着順)  
この申込用紙にご記入の上、FAXまたは郵送にてお送りください。  
項目すべてご記入ください。

フリガナ		年齢	歳
お名前		性別	男・女
住所	〒		
	TEL	FAX	
フリガナ		年齢	歳
お名前		性別	男・女
住所	〒		
	TEL	FAX	

**締切11月10日(金)** ただし定員に達し次第、締め切らせていただきます。

**会場案内** 宝塚ホテル (宝塚市梅野町1-46) TEL 0797-87-1151



JR三田方面およびJR伊丹方面からはJR宝塚駅で下車し、阪急宝塚駅でお乗り換えください。



阪急宝塚南口駅下車  
西側スグ  
※阪急宝塚駅ではありませんので、ご注意ください。

参加者用の駐車場は用意されていません。  
公共交通機関をご利用ください。

電車と所用時間  
阪急「梅田」より約30分(阪急西宮北口駅経由)  
JR「新大阪」より約50分(JR、阪急利用)  
阪急「神戸三宮」より約30分  
阪急今津線(宝塚方面行き)『宝塚南口』駅下車 駅前  
※阪急西宮北口駅には(今津行き)と(宝塚行き)の2種類のホームがありますのでご注意ください。

空港よりお越しの場合  
関西国際空港より約90分(南海、地下鉄、阪急利用)  
大阪(伊丹)空港より約20分(車利用)

# 北摂SATOYAMA国際セミナー 地域資源の循環

～地域の活性化と里山資源を活用したビジネスの可能性～

日時 平成29年 11月18日(土) 13:00～17:00

場所 宝塚ホテル すみれの間 (宝塚市梅野町1-46)

内容 基調報告・パネルディスカッション

定員 100名 ※要申込(先着順) 参加費 無料

主催



兵庫県阪神北県民局

IGES (公財)地球環境戦略研究機関 (IGES)

APN アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)

北摂里山博物館運営協議会

協力

兵庫県立人と自然の博物館

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)事務局



主催：兵庫県阪神北県民局、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)、地球環境戦略研究機関 (IGES)、北摂里山博物館運営協議会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 事務局  
後援：武庫川流域環境保全協議会



## 『地域資源の循環 ～地域の活性化と里山資源を活用したビジネスの可能性～』

### 開催趣旨

阪神北地域一ひょうご北摂には、人々の暮らしの中で守られ、貴重な自然を今に伝える魅力ある里山が数多く残されています。

阪神北県民局では、これらを地域の重要な資源として生かそうと、地域全体を「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」として発信し、里山の持続的な保全と地域の活性化につながる様々な施策に取り組んでいます。

また、阪神北地域では、里山を維持していくために住民や森林ボランティア団体による保全活動が活発に行われています。

しかし、それでも多くの里山は、木材などの経済的価値が低下したことから利用がなされず、放置が進んでいる現状にあります。

里山の新たな価値を創出し、それを活用するための仕組みづくりが必要になってきています。

本セミナーでは、国内外の専門家や活動家などをお招きし、それぞれの国や地域での里山が有する地域資源を活用した経済活動のほか、地域課題に対応するスモールビジネスの取り組みについて紹介いただきます。

本セミナーが、住民や森林ボランティア団体による保全活動のさらなる活性化や、新たな担い手となる都市住民の里山活動への参画を促すきっかけづくりとなることを期待します。



### 講師

#### シェンリン・チャン (台湾、国立台湾大学教授)

2000年にカリフォルニア大学バークレイ校にて博士号を取得（環境建築デザイン）。市民芸術、コミュニティ形成への参加、社会政治的活動などを通じて環境問題への市民参加の革新的アプローチを研究及び実施。20年にわたり米国で教職に従事したのち、台湾へ帰国し、国立台湾大学建築・都市計画大学院研究所教授として教鞭を執る。国立台湾大学創新設計学院人文社会チームリーダーを兼務。台湾第4回国家智栄賞の卓越賞を受賞。現在に至る。



#### マーリット・マイナーズ (インドネシア、Misool基金財団及びMisoolエコリゾート創業者)

スウェーデン生まれ。米国コロンビア大学にて学士取得（人類学）。2000年にタイでスキューバダイビングに出会い、インドネシア東部のラジャ・アンパット諸島に移住。面積1,200km<sup>2</sup>以上のサンゴ礁を保護しつつ、持続可能な観光を目指して、基金財団、エコリゾートを設立。地元コミュニティの活性化に寄与するとともに、幼稚園の建設など幼児の教育にも注力している。



#### 赤木 直人 (一般社団法人 アシタカ 代表理事)

1979年大阪府住吉区生まれ。岡山の大学を中退後、小売業のバイヤーとして会社勤務。2009年子どもの誕生を機に、妻の実家がある真庭市蒜山中和地域に移住。観光協会職員を経て、2015年5月に（一社）アシタカを設立。地域を次世代につないでいくために地に根付いた暮らし方、考え方、生き方を大事にしながらか地域資源を活用し、移住希望者との相談窓口として地域内外の人をつなぎ、人と自然との関りも結び直すことに取り組んでいる。



#### 大谷 雄治 (兵庫県温暖化対策専門員)

1956年兵庫県生まれ、1978年兵庫県入庁。農政環境部をはじめ各部を経て2015年4月から淡路島民局県民交流室環境参事。淡路島の放置竹林の拡大防止策として取り組まれている「あわじ竹資源化プロジェクト」のリーダーとして「あわじ竹資源エネルギー化5カ年計画」を推進し、島内各所に竹チップボイラーの導入を主導。2017年4月から温暖化対策専門員として引き続き竹のエネルギー利用の普及拡大に活動中。



### パネルディスカッション

■ コーディネーター

#### 中瀬 勲 (兵庫県立人と自然の博物館館長 兵庫県立淡路景観園芸学校学長)

大阪府立大学農学部卒業（70年）、同大学院農学研究科修士課程修了（72年）、同大学助手、講師、助教授、カリフォルニア大学客員研究員、兵庫県立大学大学院（専門職）、緑環境景観マネジメント研究科長・教授、兵庫県立淡路景観園芸学校校長（2009.4-2011.3）、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、兵庫県立人と自然の博物館副館長・事業推進部長兼務を経て、現職。



日時 | 11月8日（土）13:00～17:00 場所 宝塚ホテル すみれの間

13:00～ 元タカラジェンヌによるウェルカムパフォーマンス

13:30～

#### 趣旨説明

中瀬 勲 (兵庫県立人と自然の博物館館長、兵庫県立淡路景観園芸学校学長)

#### 基調報告

● シェンリン・チャン (台湾、国立台湾大学教授)

#### 「台北市郊外の坪林 (ピンリン) 地区の里山に見る茶づくりの再出発」

翡翠貯水池を囲む水源保護地域の農業規制のため、不振だった坪林地区の茶づくりに期待の兆しが表れた。若手人口の流出などの問題を抱えるなか、国立台湾大学の学生が茶づくりに乗り出し、有機栽培の包種茶（北台湾特産のウーロン茶）のブレンド「山不枯（サンブク）」を立ち上げた。台湾大学の大学院の教員や学生が持続可能な茶づくりに取り組むなか、地元コミュニティとともに坪林地区の活性化を展開。当プロジェクトを紹介するとともに、克服してきた問題やこれから取り組まなくてはならないチャレンジ等について報告。

● マーリット・マイナーズ (インドネシア、Misool基金財団及びMisoolエコリゾート創業者)

#### 「エコツーリズムによる地域活性 ～ビジネスと自然環境保護の両立～」

南洋インドネシアのサンゴ礁の美しさに魅入られたマイナーズ夫妻は、保護活動に必要な資金を得る方法は持続可能なエコツーリズムであると認識。手つかずのサンゴ礁こそがビジネスの資源と捉え、建設したのがパプア島から165km沖の離島にあるMisoolというエコリゾートで、ここは昔、「Shark finning\*」というサメ漁の基地だった。このリゾートを取り巻くのは、約1,214km<sup>2</sup>の非漁業ゾーンのサンゴ礁で、地元出身のレンジャー達のパトロールによって守られている。彼らの多くは昔サメ漁師だった。ビジネスと自然環境保護の両立を目指して、地元コミュニティを巻き込んだ取組について報告。

\*「Shark finning」とは、生け捕りしたサメのひれを切り取り、まだ生きているサメを海に捨てるという残酷な漁法であり、生物多様性の観点から抗議の対象になっている。

● 赤木 直人 (一般社団法人 アシタカ 代表理事)

#### 「里山の循環とふるさとの再生 ～里山のコト・モノ・ヒトづくり～」

地域温浴施設への薪ボイラ導入をきっかけにはじまった里山の活用が循環型社会の形成、山村と都市との交流、暮らしや文化の継承など様々な取り組みにつながり、新しいライフスタイルが生まれる。それが呼び水となり、移住者が増加。やがて地域の存続、再生に結び付いていく。人と自然、人と人、世代と世代のつながりを大切にしたい地域づくりについて報告。

● 大谷 雄治 (兵庫県温暖化対策専門員)

#### 「あわじ竹資源化プロジェクトー放置竹林をバイオマスエネルギーへ」

淡路島では放置された竹林が10年間で約320ヘクタールも拡大し、里山環境に深刻な影響をもたらしている。淡路島では、地元自治体やNPO法人が連携し、島内に豊富にある竹資源をバイオマスエネルギーとして活用することにより、放置竹林の拡大を抑制しながらエネルギーの地産地消を目指し、竹チップボイラーの温浴施設などへの普及に取り組んでる。竹を資源化するプロジェクトの概要や課題、将来の展望について報告。

16:00～

### パネルディスカッション

テーマ：「北摂地域における里山ビジネスの可能性を探る」

コーディネーター 中瀬 勲 (兵庫県立人と自然の博物館館長、兵庫県立淡路景観園芸学校学長)

パネリスト シェンリン・チャン (台湾、国立台湾大学教授)

マーリット・マイナーズ (インドネシア、Misool基金財団及びMisoolエコリゾート創業者)

赤木 直人 (一般社団法人 アシタカ 代表理事)

大谷 雄治 (兵庫県温暖化対策専門員)

高石 豊 (兵庫県阪神北県民局県民交流室 環境参事)

